

海の人材育成に関する国際シンポジウム

2016年7月19日～20日 | 日本・東京

セッション4：気候変動への対応

Photo credit: Nick Hall

アット・ザ・ウォーターズ・エッジ——「AWE」

沿岸部のレジリエンス強化

グレナダとセントビンセントおよびグレナディン諸島

1) 当プロジェクトの主眼点

アット・ザ・ウォーターズ・エッジ (AWE) は、テレスコープ、グレンビル、スービーズ、マーキスというグレナダ東海岸のグレンビル湾域 (GBA) 沿岸部にある4つのコミュニティで実施されている。このプロジェクトの目的は、こうしたコミュニティと協力して気候変動に対するレジリエンスを高め、海洋および沿岸の生態系を自然に基づく解決策を使って効果的に管理するための知識を与えることにより、コミュニティの適応能力を強化することにある。

2) 参加組織およびその他のパートナー

AWEは、現地パートナーのグレナダ赤十字社 (GRCS)、グレナダ環境保全基金 (GFC)、レスコープ、グレンビル、スービーズ、マーキスの各コミュニティ、ならびに、さまざまな行政部局を通じたグレナダ政府との協力の下、ザ・ネイチャー・コンサーバンシーが主導している。

すべてのパートナーが AWE に独自の特色を提供しており、そのおかげで、当プロジェクトの社会経済的な部分と構造的な部分の両方を実施することが可能になっている。グレナダ赤十字社はリスク評価とリスク管理が専門であり、一方、グレナダ環境保全基金は、マングローブの復元とコミュニティ活動についての専門知識を有している。また、GBA の住民は地域内の自然および文化に関わる資源の世話役であり、貴重な地元の知識を持っている。

3) 能力開発において効果が証明された活動やツール

創設以来、AWE のチームは現場レベル (プロジェクト地域内) だけでなく全国レベルでも、以下のような活動を通じて能力開発に取り組んでいる。

- グレナダと、セントビンセントおよびグレナディン諸島の両方で、環境保全の分野について23名にトレーニングを行った。現在、彼らは AWE リーダーとして知られている。
- コミュニティのメンバーを、参加型の3Dモデリング (P3DM) についてトレーニングを行った。その結果、コミュニティの自然および文化に関わる資源を強調した GBA の P3DM をメンバーが制作した。
- パートナーの GRCS と共に、自然に基づく解決策を用いた災害リスクの軽減と適応に関して、コミュニティのメンバーと漁民にトレーニングを行った。
- パートナーの GFC と共に、海岸線の保護を強化する目的でマングローブの胎生種子を収集し、手入れを施し、それを戦略的な場所に移植するために、テレスコープのコミュニティの

地元住民にトレーニングを行った。この訓練の受講者は、同時に、プロジェクト地域外での保全プロジェクトにも参加している。

- 民間部門および公共部門双方の要員に地理情報システム（GIS）のトレーニングを提供し、意思決定に必要なデータの収集・空間化・分析の「ノウハウ」を教えた。これが、国勢調査部門による 2001 年と 2011 年のグラナダの国勢調査データの空間化につながった。

能力開発における肯定的な成果としては、以下のようなものがある。

- 赤十字社の「脆弱性と能力の評価」（VCA）に自然に基づく要素を用いて調整を加えた上で、GBA 内で実施する VCA に使用した。
- 集約された GIS プロジェクトのデータ——深海底の生息環境、海面上昇シナリオ、重要なインフラなど——について、意思決定プロセスにおいて利用できるオンライン・プラットフォームとして <http://maps.coastalresilience.org/gsvg/>を開発した。
- 劣化が進むグレンビル湾内の最北部に位置する礁に、サンゴの破片を貼り付けて礁を加工した混合型の構造物を試験的に設置した（30メートル、GBAの漁民による）。その目的は、海岸線に到達する強力な波のエネルギーや潮流を低減し、ひいては沿岸部の浸食の影響を減らす上で、そうした混合構造物の実用性を確かめることである。現在、この試験の測定を行っているが、これまでのところプラスの成果が生まれている。

4) 特に、継続的に能力開発に取り組むことおよび／または同様のプロジェクトを他の地域で展開することに関連して経験した困難な課題

AWEが直面する困難な課題の1つは、目に見える活動——すなわち、マングローブの移植と岩礁の作業——が実施されていない期間中であっても、プロジェクトに対するコミュニティの関心を維持することである。

同様のプロジェクトを他の地域で展開することに関しては、AWEの資金が特にGBAとセントビンセントおよびグレナディン諸島向けとして配分されているため、現在は資金の制約上、プロジェクト活動を島内の他の地域で実施することは無理である。ひとたび成功を収めれば、グレナダ全土、および、気候変動による同様の影響を受けている他の小さな島嶼国家においてAWEを模倣するため、追加資金を求めることができる。

1. グレナダの全国災害管理機関（NaDMA）および国際赤十字連盟（IFRC）と協力し、現在進めている気候への適応と災害リスク軽減のためのコミュニティ・レジリエンス計画（CRP）の策定を継続する。
2. 試験的に設置した礁を加工した構造物の測定を継続しながら、グレナダ政府と協力して、グレンビル湾を保護するために必要な完全な増築（300メートル）を実施する資金を確保する。
3. GBA内の戦略的な場所において、マングローブと沿岸性の植物の繁殖と植栽を行う。
4. コミュニティ主体で水質の監視と海浜の特性把握を行うプログラムを開始する。
5. 普及活動を行い、学んだ教訓を文書化する。

<http://coastalresilience.org/project-areas/grenada-st-vincent-and-the-grenadines-introduction/>

<https://www.conservationgateway.org/ConservationByGeography/NorthAmerica/Caribbean/science/adaptation/Pages/awe.aspx>



© マージョ・アホ

地図——グレナダとセントビンセント
およびグレナディン諸島

沿岸部の浸食——テレスコープ

アット・ザ・ウォーターズ・エッジ
(AWE) プロジェクト



グレナダとセントビンセント
およびグレナディン諸島における
沿岸部のレジリエンス